雑感　初の共通テストの感想

■　センター試験に代わる共通テストが 1 月 16，17 日に実施された．数学について，とりとめもなく感想を書いてみたい．

■　まず，印象として「易しい」である．実際，20 日に公表された平均点等の中間集計でも，平均点が I･A : 59.20 点(標準偏差 : 19.64 点) ; II･B : 62.85 点(標準偏差 : 23.23 点) は，非常に良い得点であろう．

その理由はいくつか考えられる．

大きな理由としては，過去 2 回の試行調査が難しすぎたからである．そのため，平均点を上げる作問がなされ[羹に懲りてあえ物を吹いたか？]，一方で受験生側は，難しいかもしれない問題への対応へいそしんだ結果ということであろう．

■　新しい傾向の問題はどうか見てみる．

まず，「会話文形式」の問題である．複数の見方を要求されることの多いこのタイプの問題は，「答えが出ればよい」という客観問題の欠点を補う出題と考えられる．

I･A では，第 1 問〔1〕(3)，第 3 問(3)(4) ; II･B では第 1 問〔2〕(3)にそういった設問がある．しかし，試行調査に比べるとウエイトが低く，問題の後半に置かれていたりして，その部分の不出来が問題全体の出来に与える影響が少なくなっている．

日常生活などに題材をとるという問題については，I･A では，第 2 問〔1〕にあり，取っ付きが悪かった受験生もいたに相違ない．

■　分量について見てみる．

何といっても，I･A のページ数の膨大化である．特に，第 2 問〔2〕の「データの分析」に至っては，9 ページにわたる．「データの分析」部分について，2019 年が 6 ページ，2020 年が 7 ページであるからそれと比べても肥大している．様々なデータのページを参照しながら解答しなければならないこのような問題では，答えの導出に必要なデータがあちこちのページにあって，ページをくくる煩雑さが半端ない．

解答時間が 70 分になったとはいえ，多くの資料を処理するための時間延長では本来ないはずで，問題のスリム化を求めたい．

■　選択問題について見てみる．

I･A では，第 3 問の確率に会話形式があり，第 4 問の整数は石の移動を絡めてあって，後半難易度が上がる印象．第 5 問の図形は従来の傾向通りだが，最後の方べきの定理の逆がやや難しいか．

II･B では，第 3 問の確率分布と統計的な推測は 2 項分布の正規分布近似で，(4)を計算せずに判断する力が必要．第 4 問の数列は従来通りの形式で取っ付き易い．第 5 問のベクトルは 4 ページにわたり，正 12 面体という分かりづらい設定だが，それぞれに図が載せてあって見かけほどではない．

■　II･B の選択問題の順番が，センター試験の「数列，ベクトル，統計」から，共通テストになって「統計，数列，ベクトル」へと変更になった．

「統計」を第 3 問へ移したのは，学習指導要領の数学 B の項目の順に並べ直したものと思うが，選択者が若干しかいない「統計」，教科書の最後に置かれている「統計」，高校でほとんど履修されない「統計」ということを考慮すれば，センター試験の配列に戻すべきではないか．

ネットでの受験生の声の中に，「数列，ベクトルを解答したのに，解答用紙の第 3 問，第 4 問にマークしてしまった！」というものをいくつも見た．

試行テストで新しい順番を示しているので，受験生の不注意と言われればその通りなのだが，直前にセンター試験の過去問をやったり，(「統計」の問題を載せていない) 予想問題集をやったりしていて，その流れでミスをしたという受験生もいるのであろう．気の毒なことである．

こういった問題が，平均点の高さによって霞んでしまうことを危惧する．

仮にこの順番で出題するにしても，大学入試センターはもう少し解答用紙に間違い防止の工夫をすればよかったのではないか．

例えば，次のようにすれば，このマークミスはだいぶ減ると思われる．

■　この週末には追試験を含めた第 2 日程の試験が行われたが，その難易度や問題傾向も気になるところだ．

2021 年 02 月 01 日